

大学



国民の意思示す機会

中京大2年・安田悠里子
国民の意思表示ができる選挙。有権者の半分の意思で日本社会が回って良いのだろうか。さらに投票率が下がれば、一部の意思だけで回ることになりかねない。

候補者見つけやすく

愛知淑徳大4年・宮沢和枝
「マイ争点」で考えが整理され明確になり、自分と似た考えの候補者を見つけやすくなると感じた。高校では主催者教育がなく、その頃に話を聞いたかった。

独は主催者教育盛ん

三重大2年・西尾七海
ドイツは主催者教育が盛んで、その根拠には、ヒトラーによる独裁政治を反省する国民の「心」があると教えてもらい納得した。

若者も投票する必要

愛知大2年・冨田真穂
誰に投票したら良いかわからなかったが、若者が選挙に参加できていないことに気がついた。投票に行かないと、さらに若者の意見が全体に届かなくなる。

地方選は生活に直結

愛知教育大3年・新海亮太
地方選は自分たちの暮らしに直結すると分かった。選挙権年齢が下がった戸惑う声が多いが、海外では若者の政治参加が進んでいると自覚しないといけない。

mycomment

自分たちで変えたい

南山大3年・榊原悠太
選挙への向き合い方次第で、自分が望む社会に近づけられる意思表示の場になると思えるようになった。政治をつまらなく、という前に自分たちで変えたい。

新たな見方ができた

名城大3年・小島大世
政策に興味を持たなかったが、マイ争点を考えるのは面白くなったと思う。政党だけでなく、立候補者の考えもよく見て選びたい。

幼少からの教育大切

稲川女子学園大1年・黒田桃花
若者が政治に参加するには、幼少期からの教育で自分の考えを持ち、発表していく力が大切だと思った。

もっと投票で扱って

名城大2年・岡田彩花
日本の若い世代は世界と比べても政治への関心が低いと知った。もっと投票で扱ってほしい。候補者と交流する機会があれば政治に関心が持てると思った。

市長らと交流したい

時習館高3年・市川慎太郎
若者の政治参加が大事と分かった。自分の住む地方で市長や市議と交流したいと思った。

西野さんの講演を聴き、マイ争点に挑戦する学生スタッフ=中日新聞社で



慶応大研・西野さん「若者の意見届けて」

（この「行」）1984年、東京生まれ。慶応大学経済学・メディア研究科修士課程修了。松下政経塾出身。専門は18歳選挙権・主催者教育。神奈川県、愛知県を主舞台とする主催者教育を推進。

「若者が政治に参加するには、幼少期からの教育で自分の考えを持ち、発表していく力が大切だと思った。もっと投票で扱ってほしい。候補者と交流する機会があれば政治に関心が持てると思った。」

「若者が政治に参加するには、幼少期からの教育で自分の考えを持ち、発表していく力が大切だと思った。」

18歳選挙権 初の統一地方選

きょう(7日)二十一日は、十八歳選挙権が導入される。初めての統一地方選の開票日。七月には参院選もあるが、「公約を断るでもマイチ誰に投票すればいいのかわからない」という学生スタッフも。若者の政治参加に関わってきた慶応大SFC研究所上席員の西野健彦さんに、選挙の意義や投票する上でのヒントなどを教えてもらった。(愛知淑徳大四年・宮沢和枝、中京大一年・安田悠里子)

選挙のたびに耳にする「がなかつたら、四十一」「投票率の低い」。総務省「五十代は「仕事があったか」の調査によると、前回は〇。六十歳以上は「衆一五年の統一地方選は、市議選の解散の理由に納得がいかなかったから」と言い、「一八歳」とスタッフからは驚きの声があがった。「このため投票を促す対策は年別別に考えた方がいい。若者は、投票した証を証明しない理由も、世代ごとに違いがある」と西野さん。二十代で「選挙には一票を投じる」と決意し、大学内に期日前投票所を設けることが有効という。

「若者は、投票した証を証明しない理由も、世代ごとに違いがある」と西野さん。二十代で「選挙には一票を投じる」と決意し、大学内に期日前投票所を設けることが有効という。

「マイ争点」考え投票を

「若者の意見届けて」

「若者が政治に参加するには、幼少期からの教育で自分の考えを持ち、発表していく力が大切だと思った。」

「若者が政治に参加するには、幼少期からの教育で自分の考えを持ち、発表していく力が大切だと思った。」

「若者が政治に参加するには、幼少期からの教育で自分の考えを持ち、発表していく力が大切だと思った。」

